

地域の観光資源再発見

～羽咋市千里浜地区で地元学と観光のまちづくりを考える～

【趣旨】

地元の人には当たり前風景・体験が、外の人には感動を与える素晴らしい観光資源となることに気付かない場合が多い。この分科会では、日頃、地域の資源を活かしたまちづくりをしている方々を対象に「地元学」の手法で地域資源探しを実践。チームNAGISAのメンバーの「土の目」とともに、参加者の「風の日」を入れながら、観光資源探しに出掛ける。

【ゲスト】

赤石 大輔／能登半島里山里海自然学校常駐研究員

能登半島里山里海自然学校の常駐研究員として、地元の人と協働して里山里海の再生をめざす活動をしている。専門は生態学。里山のキノコと昆虫の関係を研究している。金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程（生命科学）修了。理学博士。群馬県伊勢崎市出身。

若井 憲／月刊「自然人」編集長

メーカーで設計をしていたが、ひよんなことから大好きな旅行に関係する出版社に転職。仕事で旅行ができ、これほど楽しいことはないと思っていたが、だんだん観光地を外側から眺めるだけでなく、そこに住んでみたくなり、1999年に思い切って金沢へ家族で移住。現在は橋本確文堂で『自然人』の編集長を務めながら、さまざまな情報発信を手伝っている。神奈川県川崎市出身。

【コーディネーター】

谷内 博史／石川地域づくり協会コーディネーター

まちづくり活動を支援するNPOでの勤務や、まちづくり会社での中心市街地の再生の経験を経て、現在は、七尾市のまちづくりコーディネーターとして、市民活動支援助成制度、まちづくり基本条例策定を担当。能登旨美オンパクうまみん実行委員として、能登の地域資源を活かした着地型ツアープログラムづくりのコーディネートも行う。富山県富山市出身。

協力団体 ● チーム絆、市民活動支援センター

会場 ● おっちゃっ家

参加者 ● 20名

1. 分科会要約

今回は、地域づくりとして活かしたい4箇所をチーム NAGISA のメンバーの方々が地元以外の人を案内し観光資源探しの散策をしました。

その中からコーディネータの谷内博文氏の進行による地元学的手法を活かし、地元以外の人からの意見を参考に今後のまちづくりに役立てる為に「羽咋市らしいツアープログラムづくり」について「松林の活かし方について」「千里浜海岸～アカウミガメ産卵地の活かし方について」意見交換を行いました。

「散策エリア」

- ・千里浜地区の松林



- ・アカウミガメ産卵地



- ・大伴家持歌碑



2. 開催で得たもの（新しい発見）

今まで、必要重労働としか思っていなかった、松林の「こっさ」（松関係の枯れ枝や落葉物等）を拾って捨てていた「こっさ掻き」が、竹の浦館（加賀市大聖寺）では「こっさ」を珪藻土の窯で炊いたごはんを「こっさめし」として出しているとの事を聞き、クロマツ林の管理の一環として新しい発見が出来た。



3. 分科会まとめ

今回は、羽咋の里海環境にまつわる物ばかりを見ていただいた。里海というと自然の事だけではなく、歴史の事や人も含まれる。

ここが、今どういう事になっているか、どう変化してきているのか、その事をきち

んと外の人々の目を入れながら常に記録をしていく、作業を一緒にしていくその過程そのものがツーリズムになっていくと思います。

地元学を取り入れ、改めて地元を深く知る・探る事も重要である。

4. 今後に向けた展開

具体的な結論はでなかったが、かつての松露料理、長谷川等伯の「松林図屏風」の原風景などを物語でつなぎ、新しい要素の「フィールドガイドの養成」や「こっさめしの開発」などに繋がられないか考えていきたい。

アカウミガメの産卵地である場所に、意識付けをするためのツールとして「徐行・一時停止」のアカウミガメの交通標識を作ってみたい。

千里浜エリアに写真を撮るステキなポイント一覧などを作っていきたい。

5. 参加者の声

・能登有料道路から降りて、千里浜エリアで「楽しい事」「楽しめる事」をどんどん紹介してほしい。

・車から降りて、「歩くツアー」を作ってみてはどうか。

・「こっさめし」の開発を是非行ってほしい。

